

立川市立幸小学校（２年目）

【校長】 菊池 修
【生徒数】 ３４４名
【学級数】 １２学級



次の取組へ

【課題・改善】

- ・豊かなスポーツライフに向けて、資質能力を身に付けるために、より個に応じた課題をもたせることができるよう、今後も授業改善を続けていく必要がある。
- ・今後も生活習慣の改善に向けて、学校だけでなく家庭への啓発を続けていく。

目標

- ・運動することが楽しいと感じる児童（９０％以上）
- ・体育の授業で友達と関わって「できた・わかった」を実感できる児童（８５％以上）

【成果】

- ・体育科の授業改善により、体育の学習で「できた・わかった」と実感した児童が８７％に増加した。
- ・多くの学年が一緒に運動することで、運動を「楽しい」と感じる子どもが９２％に増え、運動の日常化に繋がる意識をもたせることができた。
- ・定期的に自分の生活を見直すことで、自身の生活習慣を良くしようという意識の変容が見られた。

【実態・課題】

- ・基本的生活習慣が定着していない児童は、体力や学力にも影響する傾向があると考え。
- ・日常的に運動に親しむ児童とそうでない児童が二極化しており、運動していない児童の運動への興味関心を高める必要がある。
- ・児童が運動を好きになるために、体育科の指導力向上に努め、児童に体育の授業で「わかった・できた」を多く味わわせることが必要である。

【取組】

- ・体育科の授業づくりにおいて、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をめざした授業の工夫を講じる。
（年間３回の研究授業の実施）
- ・運動する喜びを味わうことができるよう、児童が主体的に運用できる特別活動の取組を工夫する。
（縦割り活動による体育的活動の実施）
- ・健康的な生活を維持するための、基本的生活習慣について考え実行する意識を育むための取組を実践していく。
（「生き生きウィーク」の実施）

【取組（詳細）】

○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した授業の工夫

低・中・高学年分科会毎の授業提案を行った。個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実するように手立てを考え、授業提案、研究協議を行い、成果と課題を明確にした。

また、講師による指導講評から指導改善につなげることができた。



＜個別最適な学びの姿＞

自分にあった規則やルールを選んだり、課題を見付けたりして、それらを達成・解決しようと運動に取り組むことができた。

＜協働的な学びの姿＞

自分の意見を伝え合う活動を取り入れることで、多様な考えを聞くことができ、自分の考えに活かすことができた。

○ 特別活動の充実

縦割り活動「ハッピータイム」を実施した。６年生を中心に企画、運営を行い、全学年が楽しく体を動かせる遊びを行った。その中で、上級生が下級生に遊びのやり方を説明したり、手をひいて一緒に遊んだりする姿が見られた。また、体育委員会が中心となって企画した、短縄と長縄週間や体力向上プロジェクト等の様々な取組を行った。



児童による体力向上の取組み「体力向上プロジェクト」

○ 生き生きウィークの実施

連休や長期休暇明けの生活習慣の見直しを目的とした、毎学期の「生き生きウィーク」の取組をはじめ、家庭と連携を図りながら子どもたちの生活習慣の定着を図った。また、養護教諭による保健指導の実践や、児童保健委員会による啓発活動を行った。



児童による生活習慣の啓発活動「生き生きフェス」